

鳥取県における脊髄小脳変性症の臨床疫学調査

研究分担者:花島 律子(鳥取大学医学部脳神経内科学分野)

図1 遺伝形式別頻度
(累積新規発症)

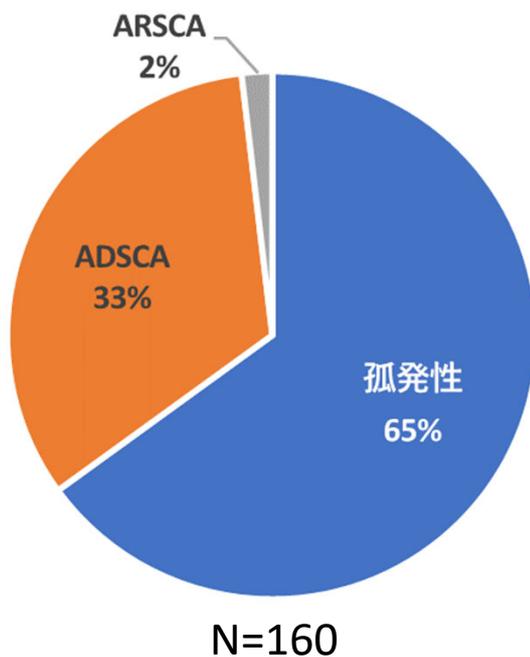
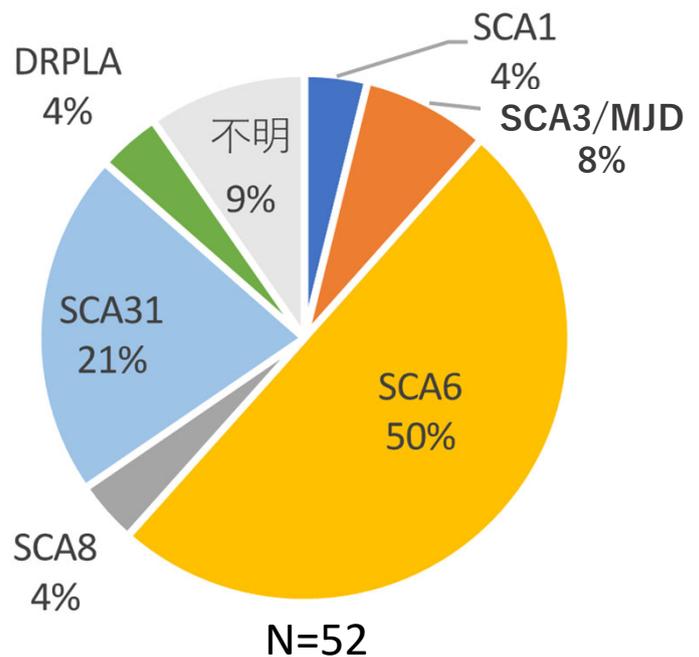


図2 ADSCAの遺伝型別頻度
(累積新規発症)



【目的】

- ①鳥取県全域を調査し脊髄小脳変性症の有病率を明らかにする
- ②脊髄小脳変性症の病型別頻度・遺伝型別頻度の地域性を明らかにする
- ③1998年の調査結果との比較を行い、高齢化社会における脊髄小脳変性症の疾病構造の変化や今後の対策に関する手がかりを得る

【成果】

1. 鳥取大学において直近20年間に新規診断された脊髄小脳変性症の病型別頻度を調査し、その地域特性を明らかにした(図1・2).
2. 鳥取県全域・島根県東部の医療機関を対象に横断的調査を行い、脊髄小脳変性症の有病率および病型別頻度につき解析中である

2019.12.04